



留年・退学率を減少させるために

～柔軟に対応できる職員を目指して～

F班2グループ:チーム未来創造



アジェンダ

1. はじめに

2. 抽出したテーマ

3. 問題解決のためのPDCAサイクル

4. まとめ

はじめに

STEP1

各大学の
問題点を
抽出した。

STEP2

問題点の
いくつかが
時代に即した
教職員の
柔軟性が
求められる
もので
あった。

STEP3

問題点を
「情報技術」
「学生」
「就業環境」
にカテゴライズ
した。

STEP4

「学生」に
焦点を当て、
問題解決
することに
した。

テーマ

単位が
取れず

授業に
ついて

授業が
面白くない

意欲の低さによる留年・退学



情報ツールを活用した授業改善による
学生の授業に対する意識の向上

解決策 (Plan)

- 魅力的なカリキュラム
- 学生にあった授業レベル
- 習熟別学習
- 個別対応・勉強のやり方講座 (初年次教育)
- 計画的な履修指導

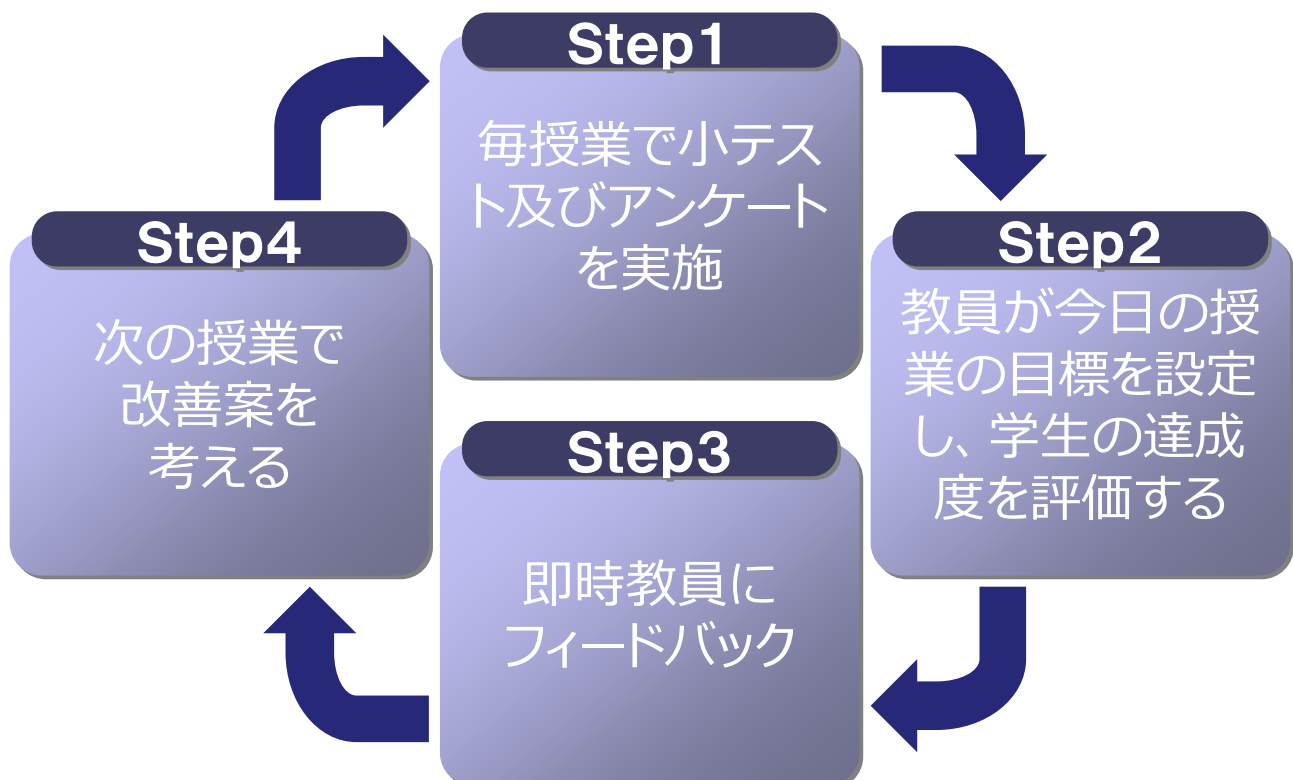
教員

へのアプローチ

学生

へのアプローチ

手法 (Do)



具体例

1 授業の最初に出席を取る。

カードリーダー
にて管理

2 出席者にだけ、URLが送られる。

3 小テスト・授業評価の
回答を返信する。

携帯を使用。



イメージ

今日の授業の理解度は？

100%

80%

60%

40%

20%

評価 (Check)

① 授業アンケートを取って満足度確認

- 全ての授業が終わった後、携帯電話でアンケートを取り集計を行います。

アンケート一例: ・資料は分かりやすかったか?

・私語・居眠り等があった場合、注意していたか?

・授業が一方通行ではなかったか? ・教員の声は適正だったか?

② 毎回の授業の出席率

- 毎回出席を取る事で出席率を管理する事ができます。
- 出席率は授業の満足度を確認する指標になります。

評価 (Check)

③ 単位取得者の増減

- 前年度の同じ講義と比較して、単位取得者の比率を割り出します。
- 取得者比率を比較することで、授業の理解度の確認ができます。

④ 留年・退学者数の増減

- 年度末に前年度末の留年者・退学者と比較します。
- 前年度と比較して減っていれば、満足度・理解度が向上していることになります。

改善 (Action)

Check

~~授業アンケートを取って
満足確認
毎回の授業の出席率~~

Action

不満に思われている箇所
を改善する

教員のスキルアップ
環境改善

改善 (Action)

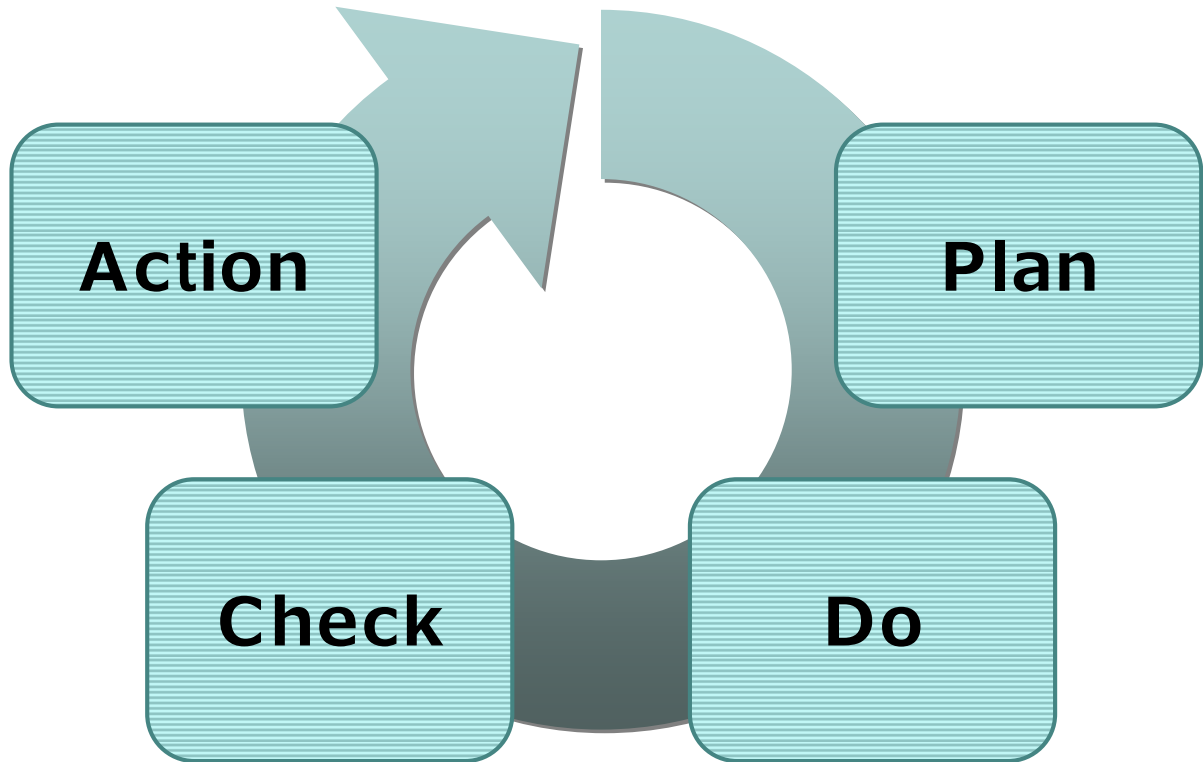
Check

~~単位取得率の増減~~

Action

手法の見直し

まとめ



ご清聴ありがとうございました。

F2班:チーム未来創造